

みんなちがって みんないい～（その8） ～共生社会をめざして～

今回は少し目先を変えて、「就労自立支援」についてお話しします。

2年ほど前と比べ、随分と落ち着いてきたとはいえ、まだ猛威を振っているコロナウィルス感染症の影響で、日本でも生活様式や働き方などに大きな変化が起きました。総務省統計局が発表した2022年7月から9月までの日本の失業者数は約200万人で、コロナの影響で増加中です。この他の資料からも、今後も増え続けていくことが予想されます。これは、高卒・大卒学生の就職にも影響しており、先の見えない状況が続いています。

「就労自立」とは、字の通り「仕事で収入を得て、自立して生きていく」ことです。全ての子供たちも最終目標は「就労自立」です。それが親としての役割の大きな節目でもあります。

では、「就労自立」に必要な能力とは何でしょう。

「学力?」「職業適性?」、どれも正解であり、不正解でもあります。もちろん必要な能力ではありますが、これは「就労自立に必要な能力ピラミッド」の頂点にある力に過ぎません。

底辺にある大切な能力、これが身に付いていないと仕事が長続きしなかったり、ミスが続いたりしてしまいます。これから「底辺にある能力」に付いてお話しします。

障害者職業センター主任研究員の相澤欽一著「精神障害者雇用支援ハンドブック」の中に、障害の有無に関わらず、就労に必要な能力について示されています。このことについては、長崎県発達障害者支援センター「しおさい」の職員による研修の中でも何度も取り上げられていました。相澤氏によると、就労に必要な能力は図のようなピラミッドで考えることができます。最も基礎となる力は「健康管理能力」で、これは「食事や睡眠などを含めた体調管理を自分でできる力」になります。今は保護者が身の回りの世話をしていると思いますが、一人暮らしをした時、自分で気掛ける必要があります。

それができた上で、「日常生活管理能力」が必要になります。これは「基本的な生活習慣や金銭の自己管理、余暇の使い方・人づきあい」などです。「自分で起きて、仕事に遅れないように出勤する」「光熱費や税金、預金の管理をしながら、払えない借金を負わない」など、とても大切な能力になります。

この二つの能力を「ライフスキル」と言い、「就労」だけでなく「生きていく上で必要な基礎的能力」です。「一人で買い物に行く」「バスに乗って移動する」「困ったときに助けを求める」など、今お子さんにその力があるのでしょうか? これらのスキルは、小学校高学年までには身に付けておきたい力とされています。このライフスキルについて、「大人になって身に付けるのではなく、就学前の幼児期から意識して子育てすることが大切」です。これは「早くから意識しないと十分に育たない、身に付かない」ということでもあります。

これら基礎的な能力の上に、「対人技能」「基本的労働習慣」「職業適性」が必要になってきます。

実際、この基本的な力が十分に身に付いていなかったために、就職に失敗する例が少なくありませんし、本人の能力特性と職業適性が一致しない職業についてしまうと、仕事が上手く行かないだけでなく、人間関係の悪化などから不安症などの精神疾患を誘発する原因にもなってしまいます。

学校は、小学校も大学であっても、良くも悪くも「児童・生徒ファースト」です。児童生徒のことを第一に考えて、周りが動きます。しかし、社会はそうではありません。会社や企業はボランティアで人を雇えないので、「必要な人材かつ長期的に就労できる」ことが雇用の条件となります。

保護者がいつまでも子供の身の回りの世話を焼くわけにはいきません。自信をもって成人の春を迎えられるよう、歩を進めていきたいですね。

※参考文献 「みんなちがって みんないい」
平戸市立田平北小学校 木村 栄 指導教諭

(文責 特支CO 山下 健一)

